

# ソマリア難民支援へ

抗争と飢餓に苦しむアフリカ北東部のソマリア難民を支援しようと、国内の市民団体が連携して現地へ飛び活動することになった。

一月下旬には隣接するケニアの難民キャンプで医療、教育など専門分野を生かして本格的に動き出す。

参加を予定しているのはアフリカ教育基金の会（北九州市）、アジア

医師連絡協議会（岡山市、東京）、

立正佼成会平和基金（東京）などで

さらに二団体増える予定。アフリカ

教育基金の会が十一月末、静岡県御

殿場市で開かれた「全国NGOの集

い」で協力を呼びかけたのがきっかけになった。

ケニア・ナイロビに事務所を持つアフリカ教育基金の会によると、昨年からケニア北東部にソマリア難民の流入が目立つようになり、現在は日に四、五千人に上る。ケニア国内も三年前の干ばつで余裕がなく、難民が増え続ける状況は手におえない状態。同会は州政府の要請で今夏、最初の

援助物資を届け、風車井戸の建設や医療巡回サービ

ス、学校を始めた。事務局長の土井高德さんは「国連や欧米NGOの援助物資が届いていない地域

もあり、五歳以下の四分の一が死んでいる。何万人も

が一斉に流入して小屋を作ったり、たきぎを使うため

植林もしなければならず、武器を持つ民兵の

精神的なケアも必要。予算は当初二

千万円を見込んでいたが、一、二億円はかかりそう」と話す。

各団体は資金や車、協力者を集め、一月にまず四団体十数人がエルワクの難民キャンプへ向かう。今年度中に百五十人が加わる予定。

土井さんは「ケニア政府から輸送や治安の面での協力も取り付けているので、あとは日本国内がいかに動くかです。最低でも一年間をめどに活動したい。一般の資金協力や参加を歓迎します」と話している。協力についての問い合わせは同会事務局（093・741・4616）へ。

## 市民団体が手をつなぎ 新春から現地で活動

ケニア・ナイロビに事務所を持つアフリカ教育基金の会によると、昨年からケニア北東部にソマリア難民の流入が目立つようになり、現在は日に四、五千人に上る。ケニア国内も三年前の干ばつで余裕がなく、難民が増え続ける状況は手におえない状態。同会は州政府の要請で今夏、最初の

4616へ。